

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立高校体育系連絡協議会 】

1実践テーマ	【 I・V 】
2実施対象者	1年：240名 2年：実施中止 3年：実施中止
3展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4目 標 (ねらい)	<p>オリンピック・パラリンピックに関する知識・理解・関心の向上を図り、その精神を学ぶとともに、スポーツの価値を実感し、スポーツへの多様な関わり方について深く考える機会とする。また、2021年以降のスポーツ文化の広がり貢献する人材を育成する。</p>
5取組内容	<p>スポーツ健康科学科設置校である乙訓高校及び普通科スポーツ総合専攻設置校である洛北高校・鳥羽高校・西城陽高校・久御山高校・綾部高校により組織された府立高校体育系連絡協議会において取組を実施。</p> <p>(1) 講演（オンライン）</p> <p>講師 高平 慎士 氏 <陸上競技：短距離></p> <p>‘04 アテネ、‘08 北京、’12 ロンドン五輪出場</p> <p>北京オリンピック銀メダル（4×100リレー）</p> <p>演題 「オリンピックと私」</p> <p>1年生を対象に実施。将来のスポーツ文化発展の担い手となることが期待される生徒たちが、高平選手の体験談や考え方を聞く中で、スポーツの価値や意義について再認識するとともに、自分の「今」、そして「将来」を考える機会とした。</p> <p>(2) 研究発表会</p> <p>将来のスポーツ文化発展の担い手となる体育系の生徒が、研究発表会を通じての学びを広く共有することにより、スポーツの価値や効果、スポーツへの多様なかわり等についてより深く考える機会とする。</p> <p>各校において、体育系コースでのこれまでの学びを踏まえ、自ら設定した課題について、個人やグループで調査・実験・文献研究等</p>

	<p>に取り組み、6校の生徒が一堂に会する場で、校内選考で選ばれた優秀な研究の発表を実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、オンライン形式による発表会とした。</p>
6 主な成果	<p>(1) 講演</p> <p>生徒たちは、トップアスリートである高平慎士選手の考え方に触れ、卓越・挑戦の気持ちをもって自身の専門競技に打ち込む意欲を改めて高めるとともに、現在・将来に向けた意識の高い目標設定やその取組への考え方や姿勢についての様々な話を聞き、スポーツの価値や意義、スポーツとの多様な関わり方について見つめることができた。</p> <p>(2) 研究発表</p> <p>新型コロナウイルス感染症に係り、オンラインによる開催となったが、課題研究において、自分たちでテーマを設定し、仲間と意見を交わしながら試行錯誤を繰り返し、結論を導き出すとともに、研究発表大会において、その成果を広く共有する取組により、「主体的、対話的で深い学びを」実現することができた。</p> <p>自分自身の競技力向上に向けた考え方や意識を見つめ直すとともに、将来のスポーツ文化の担い手として、今後の体育系コースの学びの中で、これまで以上に深く考えていくよききっかけになったと考える。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 講演</p> <p>オリンピックを3度経験された高平選手の、競技生活における努力の在り方や苦悩されてきた一面を、一斉講義及び質疑応答する形式で実施した。各校で高平選手や世界陸上、オリンピック等について事前学習を行った上で、競技の枠を超えて関心のある内容や質問したい内容を集約し、各校からそれを踏まえて質問を行った。また、各校における事後学習として、感想文をもとに互いの考えを共有する機会をもち、講演を受けての考えをより深めた。</p> <p>(2) 研究発表大会</p> <p>発表後に質疑応答の時間を設け、内容をより深めることができた。本研究発表会を成果発表の場にとどめるのではなく、「2020オリンピック・パラリンピック」も踏まえ、今後の一層の競技力向上やより発展的な研究へとつながる機会となるようにした。</p>
8 主な課題等	<p>新型コロナウイルスの感染症の影響により、6校が合同で実施する事業はより限定的なものとなった。時間の制約もあり、これまでの成果・課題を踏まえ、実施内容の精選についても検討していく必要がある。しかしながら、京都府内体育系6校が連携し、京都府の体育・スポーツの発展に寄与することは非常に意義深いことであると考え。それらを踏まえ、各校独自の取組との効果的なリンクについて、より検討を進める必要がある。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>講演会の実施にあたっては、対象が高校1年生にあたることから、スポーツを「する・みる・支える・知る」の4つの視点を踏まえつつ、対象学年に適切な講師を選定していく必要がある。</p>